

クリーンセンター建設事業の現状は

津山誠心会議 北本周作



質問→県農業試験場の跡地利用は。表する。

回答→県と市の考え方に依然として差があるが、粘り強く協議中である。活用には民間企業も関心を寄せており、企業、団体の参入も視野に入れ、地域農業の発展、まちづくりの視点から利活用のあり方を決定する。

質問→歴史まちづくり推進室新設の効果は。

回答→町並み保存や伝統的建造物の修理の取り組みが強化される。交付金は一括交付され、関連する事業の一元化により事務処理がスピーディーになる。また、観光という切り口も備えた担当部署の設置の必要性から新設を強く要望していた。

鶴山公園の整備計画、さくら基金への取り組みはどうか

みどりの会 木下健二



質問→今後の事業スケジュールは二月に発表予定では。

回答→現在、施設配置案、覚書の見直しの協議を地元関係者と行っている。早期に取りまとめ、新事業計画を発

質問→鶴山公園の整備計画はこれからどのように進んでいくのか。「さくら基金」に寄付された市民の想いをどのように実現していくのか。

伐採撤去と山桜の植栽作業を行っている。鶴山公園は市のシンボルとして、史跡を守り観光名所として整備が進むにつれ、より多くの皆様が訪れ、親しまれ、次世代に誇れる公園としてよみがえることとなる。津山市観光協会の尽力で「さくら基金」を設置、多くの皆様からご寄付をいただいている。桜の植樹を始め、ご寄付いただいた皆様にもご理解をいただき、すべての方にやさしい公園整備を進めていく。天守閣の復元に向けた基金条例は市民の皆様が私と同じ夢を共有し、復元に必要な諸条件が整った後に検討したい。

障害のある子供達と共生できる地域の構築を

みどりの会 川崎 修



質問→津山市内の知的障害児の実態は。があると思われる。

回答→十八歳未満で療育手帳を所持している方は十六年度末が百三十四人、二十一年度末は百七十四人、五年間で約三十%増加している。

質問→津山市の不登校の実態は。

回答→二十一年度の小学校四十三人、中学校九十四人で五年前より六十二人の減少。しかし、出現率は全国や県平均より高く、津山市の喫緊の課題である。

質問→津山市内の発達障害児の実態は。

回答→通常学級で特別な支援を要する児童・生徒の実態は十九年度約七百人、年々増加し、二十二年度は約九百人で、その約七十%に発達障害の傾向

市民が笑うって暮らせる街づくりを

政津クラブ 秋山幸則



質問→今後、高齢化が進む中で、介護が必要な方々が二十四時間安心して生活ができるよう支援策が必要である。各種老人福祉施設への入所待機者が多数おられることは把握している。待機者を限りなくゼロに近づける努力をしていきたい。介護保険事業における給付と負担のバランスを考慮しながら、次期計画の策定では入所待機者の解消などを目指し、津山で長生きしてよかったと喜んでもらえる「笑顔あふれるふるさと津山」の実現に向けて、取り組みたい。

質問→高齢者を狙い撃ちする増税、わずかな年金、病院からは退院を迫られても家では待つ人もいない。介護が必要となった高齢者が安心して入所